

旨味があり被覆栽培にも向く品種。

# やまかい



夏茶の品質が良く、被覆栽培との相性の良さから、かぶせ茶生産地では根強い人気があります。

## 品種の来歴と特徴

昭和10年静岡県立農事試験場茶業部(現静岡県茶業試験場)に、農林省指定原種園が設置されたときに、場内の「やぶきた」の自然交雑実生から選抜された7000系統群のうちの一つです。昭和42年、品種登録されることにも、静岡県奨励品種に採用されました。

中生種で、摘採期が「やぶきた」とほぼ同じであり、樹姿は中間型、樹勢は「中」です。収量は「やぶきた」よりやや多く、耐病性の炭そ病には弱、「もち病」「中」、耐寒性の赤枯れに「中」となっています。

## 品質の特性

「やぶきた」と比較して、形状と色沢が良好。内質は、濃厚さに欠けるが、苦渋味が少なく、旨みがあり、覆下茶用としての適性があります。また、「やぶきた」と比較して、「一番茶」、「二番茶」がきわめてよい傾向があります。

## 栽培上の注意点

中生種ですが、萌芽が早いので凍霜害を受けやすく、その回復力も弱いので防霜対策が大切です。また、裂傷型凍害にも弱いので幼木期の防寒対策が必要です。

## 普及および栽培適地

静岡県全般。「やぶきた」とほぼ同じ。ただし、覆下茶用としての適性があります。

## 苗木の入手方法

現在、苗の増殖、販売等は自由です。経済連が苗を扱っており、農協に申し込めば購入できます。

## 命名の由来

新芽や製茶が山の茶らしいことから、「山峡(やまかい)」と名付けられました。



品種名	育成年	種苗登録の有無	育成場所	育成場所
やまかい	1967	無	静岡茶試	やぶきた自然交雑実生



早晚性	樹姿	樹勢	収量性	品質			耐寒性 (赤枯れ)	耐病性 (炭そ病)
				色沢	香気	滋味		
中生	中間	中	やや多	上	中	中上	中	弱